

■tx232char.exeの代わりにハイパーターミナルを用いた通信テスト

8月号記事では付録基板との通信テストに付録CD-ROM収録のtx232char.exeを用いています。tx232char.exeはDelphi3で作成したのですが、実行環境の相違等によりtx232char.exeが正常に動作しない場合は、代わりにwindows付属のハイパーターミナルを用いて通信テストをおこなってください。

●ハイパーターミナルを用いた通信テストの設定

以下の説明はWindows XP (SP2) の場合です。環境設定の相違等により下記の説明とメニュー項目の表示が異なる場合などがあるかもしれませんが、基本的な操作方法是どのWindowsでも共通です。

1. スタートメニューより『スタート』→『アクセサリ』→『通信』→『ハイパーターミナル』で、ハイパーターミナル (Hyperterminal) を起動する。
2. 図1のような接続の設定画面が出るので適当な名前を入力して『OK』のボタンを押す。



図1 ハイパーターミナルの起動時に表示される接続の設定画面
この例では『test1』という名前を入力している。

3. 次に図2の設定画面が出るので『接続方法』の部分で付録基板との通信に使用するシリアルポート (RS-232Cポート/COMポート) を選択する。

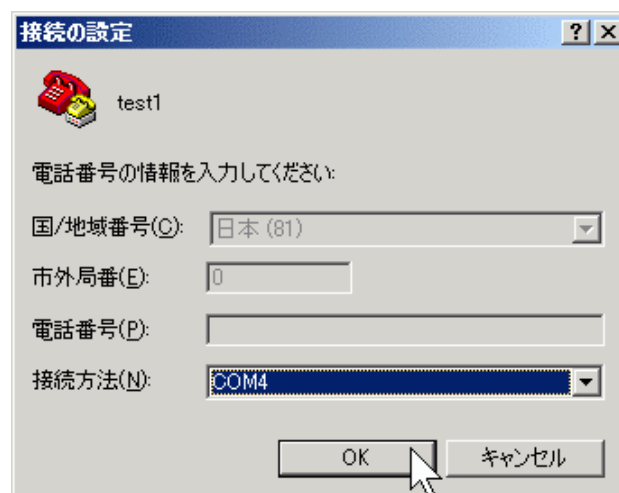


図2 シリアルポート (RS-232Cポート/COMポート) の選択画面
この例では『COM4』を選択している

4. 次にシリアルポートのプロパティ設定画面が表示されるので、図3の通り入力して、『OK』のボタンを押す。



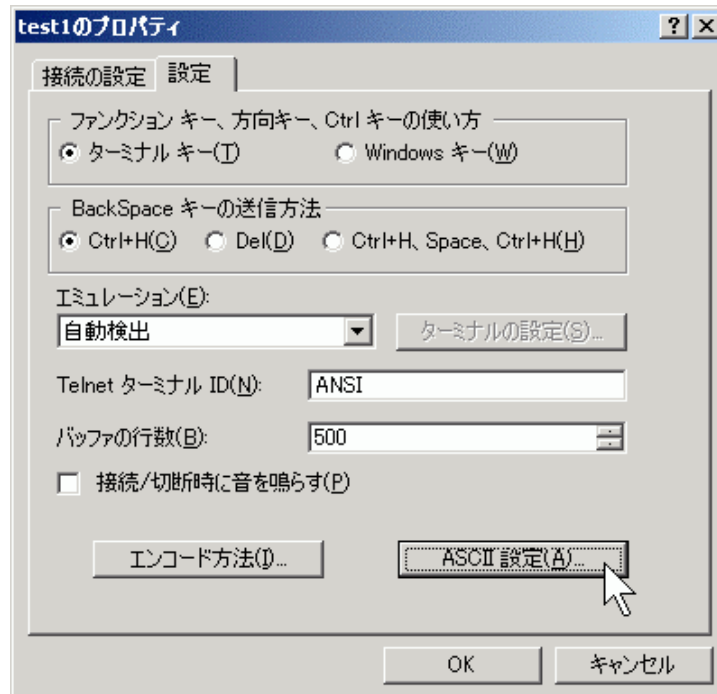
図3 シリアルポート（RS-232Cポート／COMポート）のプロパティ設定画面
この図の通りにパラメータを入力する

5. 以上の設定が終わるとハイパーターミナルの画面に戻るので、8月号記事（112ページ）にあるように、キーボードからゆっくり1文字ずつ入力して通信テストをおこなってください。なお、キーボードから入力した文字はハイパーターミナルの画面には表示されません。

●キーボード入力文字のエコーバックをおこなうための設定

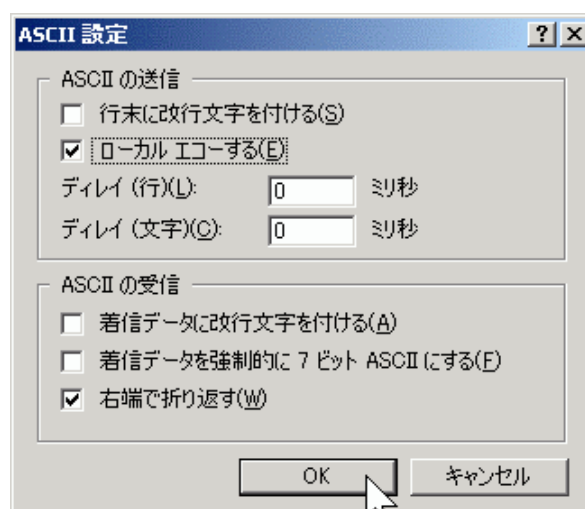
キーボードから入力した文字列のハイパーターミナル画面へのエコーバックをおこないたい場合は、以下のように設定をおこなってください。

1. ハイパーターミナルのメニューより『ファイル』→『プロパティ』で図Aのプロパティ設定画面を開き、『設定』のタブの中の『ASCII設定』のボタンを押す。



図A ハイパーターミナルのプロパティ設定画面
この画面で『設定』のタブの『ASCII設定』のボタンを押す

2. 次に図BのASCII設定の画面で『ローカルエコーする』をチェックして、『OK』のボタンを押す。
図Aのプロパティ設定画面に戻ったら『OK』のボタンを押して設定を終了する。



図B ASCII設定画面
『ローカルエコーする』にチェックを入れて『OK』のボタンを押す

3. 以上の設定をすると図 C に示すように、キーボードからの入力がハイパーターミナルの画面にローカルエコーして表示されます。

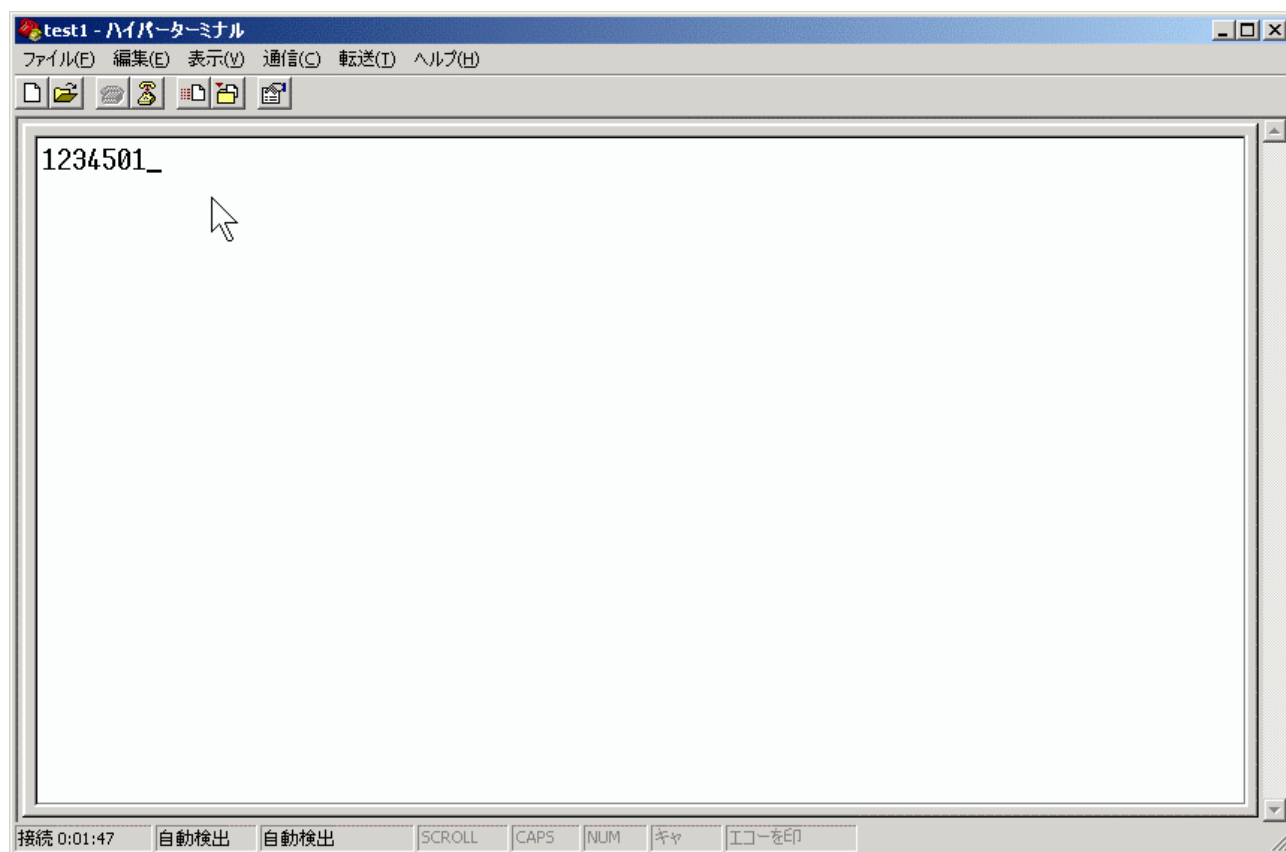


図 C ローカルエコー設定後のハイパーターミナルの画面